

「時」を測るイエス

(ヨハネ七・一〜九)

五十年に渡って累計二五〇万部を売り上げた伝説の青春小説と言え、筒井康隆の『時をかける少女』。私の如きおじさん世代は「それ原田知世でしょ。角川映画、大林監督ね」となるのだが、二〇〇〇年代に思春期を過ぎた方は「違う、それアニメでしょ」「いやいや、仲里依紗でしょ」となるのだろう。そして現在はテレビドラマ主演はカルピスウォーターのCMでおなじみの黒島結菜さん、そして未来からやって来た彼女の恋の相手役には「セクゾ（！）」の菊池風磨くんが扮する。残念ながら視聴率は今一つのようなのだが。

閑話休題。少女が駆け抜けるのは「時間」だが、我が主イエス・キリストは「カイロス」すなわち特定の「機会」を指したお方であり、その時とは十字架の死に他ならない。そして今朝の箇所からはイエスがいかに注意深く時を測り、機会をうかがっていたかがよくわかる。

一・時に無頓着だった主の兄弟たち

七章の記述は前章、即ち五千人の給

食から約半年後のことである。その間イエスはユダヤに行くことをせず、ガリラヤの諸地方をめぐり歩き、ついに季節は秋、仮庵の祭りの季節になった。その時イエスの兄弟たちはイエスにユダヤに行くように勧めた。これはどういう意味だろうか。平たく言えば「こんな辺境で教えを説き、奇跡を行ってもだめだ。有名になり、一角の教師になろうというのなら、やはり都会に出なくてはだめだ」というのである。今様に言えば関西圏でそれなりの人気を博した女優さんが、いよいよ東京進出して全国区にということにも似ていると言えよう。四節の「自分を世に現しなさい」にはそれが如実に表れている。

しかしイエスの血肉の兄弟たちはイエスの真意を全く分かっていなかった。というのは、イエスが道を説き、しるしや奇跡を行ったのは、自己実現のためではなかったからである。自己実現のためであれば、ガリラヤ湖畔でさえ「イエスを王に」という熱狂が巻き起こったのだから、いつその際エルサレムにもとうことでよかったのかもしれない。しかしイエスがこの世に来たのは有名になるためでもなく、人の耳目を一身に集めるためでもなかった。彼が来たのは神に与えられた使命を歴史上のある時、ある場所において果たすためだったのだ。

二・時を測るイエス

「兄さん、こんな田舎で終わっちゃだめだよ。さあ都会に出て勝負しなきゃ」という兄弟たちの無邪気なまでの勧めに対し、イエスは先に母に言った（参ヨハネ二・四）のとはほぼ同じことばを語る。「今はまだ俺の時じゃないんだよ」と。しかしイエスがいう「時」とはいつなのだろうか。それはヨハネ一・二三以下に明らかである。そこでイエスはその時を「栄光を受ける時」と呼び、続けてあの有名な「一粒の麦、地に落ちて死なずば、」の真理を語っている。つまりイエスが目指した栄光の時とは死の時、更に三章におけるイエスとニコデモの対話の中からヒントを得るならば民の救いの為に荒野で挙げられた蛇のごとく、その体を十字架に釘づけられて死ぬその時であった。人の子は死ななければならぬ。しかもこの世に憎まれ、十字架につけられてである。私たちにとつて死は必然的な結果だが、イエスにおいてはそうではない。イエスの生涯において死は、そして誰からも捨てられて十字架にかかって死ぬことはむしろ使命であり、目的であった。だとすれば彼はその達成のために時を測らねばならない。よつて七・一をイエスが臆病風に吹かれてガリラヤにいたと解釈するのは間違いだ。イエスがガリラヤに留まったり、お忍びで上洛したのは、あくまでも彼の人生の目標を達成するための布石だったのだ。

* * *

人生には三つの坂があるというが、彼にとつてそれは「まさか」の敗北だった。「象をも倒す」と言われたパンチが入らない。そして迎えた第八ラウンド。ロートルの元チャンピオンが放った速射砲のごとき連打によって彼の人生は暗転した。アリのキンシャサの奇跡はジョージ・フォアマンにとつては悲劇以外の何物でもなかった。しかしその悲しみの果てに彼はキリストに出会い、伝道者になる。教会は成長し、ミニストリーも順調だった。だが彼はリングに戻って来た。すでに三八歳になった彼だが「アリに敗れた元チャンピオン」の肩書もあつて試合は組まれた。しかし四二歳、四四歳の時の世界戦は善戦の末の判定負け。ようやくつかんだ三度目のチャンスだが、フォアマンの勝利を信じる者は当のフォアマン以外はほぼいなかった。そして試合はあの日のように進む。コーナーだけが逆になって。彼はかなわない。防戦一方だ。象を倒すパンチも当たらない。意味がない。しかし第十ラウンド。乾坤一擲の右ストレートで沈んだのは若きモーラーの方だった。すべては「この時」のため。「まさか」の逆転劇だった。友よ、使命を持った人生、美しく勇敢な人生には「焦点」が必要だ。我らの主の生き方はそれをよく教えてくれる。